



委員会活動報告 その1 (編集委員会、企画委員会)

第7期(平成14年度、15年度)の活動も1年が過ぎました。今号と次号の2回にわたり、各委員会の活動状況を報告します。今回は、編集委員会と企画委員会の活動状況です。(なお、研究委員会についてはNo.74に活動報告を掲載していること、年会委員会については研究発表会開催にあたり随時報告を行うことから、掲載の予定はありません。)

編集委員会

廃棄物学会では、4つの出版物を発刊している。廃棄物学会誌(2003年4月時点で14巻を発行中、6号/年)、廃棄物学会論文誌(同14巻、6号/年)、Journal of Material Cycles and Waste Management(JMCWMと略称、同5巻、2号/年)、廃棄物学会誌市民編集号C&G(同7巻、1号/年)である。

学会誌では、総説・特集および解説記事的なものを取り扱っている。総説と特集の多くは、編集委員会から執筆依頼するものが多く、なるべくニーズの高いと思われる内容を探りながらの編集作業となっている。解説的な記事(技術報告、行政報告など)は、多くが投稿によるものである。

論文誌では、投稿論文を掲載している。投稿された論文は、担当となった編集委員が選任した3名の査読者による審査を経て、掲載の可否が決定される。最近の投稿・審査・掲載状況を表1に示す。

JMCWMでは、Review Article、Original Articleおよび国際シンポジウム等での発表論文を掲載している。海外からの投稿も次第に増えている。JMCWMでは、インターネット上で記事を手で

きる電子ジャーナル化を開始した。出版元のSpringerのHPへアクセスすれば、要旨は誰でも無料で入手できる。また、パスワード保持者は全文についてもダウンロードできるので、準備が整い次第、会員にパスワード情報を送付する予定である。

C&Gは廃棄物問題を市民の目から取り扱っている。特集テーマを設定して、様々な視点からの記事を盛り込むようにしている。同時に、書店でも取り扱うC&Gは廃棄物学会を社会に紹介する媒体でもあるので、学会の活動内容から記事を集めるように努力している。(編集委員会 渡辺信久 記)

表1 廃棄物学会論文誌での投稿論文の審査・掲載状況

	2002年		2003年	計
	1-6月	7-12月	1-6月	
投稿数	25	29	34	88
掲載済 ¹⁾	13	10	0	23
掲載予定 ²⁾	2	2	1	5
不可その他	9	7	5	21
審議中	1	10	28	39

1)第14巻4号まで、2)第14巻5号掲載

企画委員会

企画委員会では、出版、シンポジウム・特別セミナー、市民・学生・地方支部、技術セミナーの4分科会とホムペ・ジ担当で委員会担当事業の展開を図っている。15年度事業計画を7月の委員会で以下のように集約したので、活動内容を紹介する。

出版分科会

出版分科会では、この6月に「新ごみ読本」を発刊した。販売促進にぜひご協力いただきたい。また、田中副会長を委員長とする出版小委員会に参画して学会としての出版事業の展開の準備に関わっている。

その他の分科会では

シンポジウム・特別セミナー・分科会

幕張メッセで例年開催されているウエストックに併せて、「容器包装リサイクル法の検証」と題する廃棄物学会シンポジウムを11月27日午後1時に開催する(p3に開催案内を掲載)。また、学会賛助会員向け特別セミナー・事業を、

2004年2月に「廃棄物分野における温室効果ガス削減関連事業の展望」をテーマに開催する。

市民・学生・地方支部分科会

地方支部・市民学生会員向けセミナー等支援事業を実施する分科会であり、首都圏では、2003年11月～12月にガス化溶融技術に関するシンポジウムを開催する方向で詰めている。その他の地域では、廃棄物学会員が少ない地域での開催を計画している。

技術セミナー・分科会

会員向けに廃棄物分野でのホットな話題を取り上げた技術セミナーを2004年3月に行うことを計画しており、テーマは次回委員会で絞り込むことにしている。

ホムペ・ジ担当

学会ホムペ・ジの企画委員会担当ページに、年間行事の広報を掲載する。今後、市民向け話題を掲載していくことを検討している。

(企画委員会 青山俊介 記)

平成15年6月28日

6月28日(土)に、広島工業大学広島校舎において、平成15年度中国四国支部総会および講演会が開催された。

総会では、中国四国各県からの 23 名の出席者および 92 名の委任状提出者を受けて、浮田正夫支部長（山口大学工学部教授）の進行により、平成 14 年度の事業報告および決算報告が行われ、さらに今年度の事業計画および予算計画が審議された。

引き続き行われた講演会では約 70 名が参加する中、まず福山リサイクル発電(株)の松下数男氏から「広島県における一般廃棄物の RDF 化とそれを用いた発電システム」について、続いて広島市環境局環境政策課の竹内功氏から「ゼロエミッションシティ 広島の実現を目指した検討について」と題した講演があった。そして最後に、大阪大学大学院工学研究科の盛岡通教授による「循環型社会におけるリサイクルのあり方について」と題した特別講演が

あり、ご自身の豊富な経験に基づいた幅広い視点からの講演に会場からも活発な意見が寄せられた。講演会終了後の懇親会にも多数の参加者があり、交流を深めるよい機会となった。（樋口隆哉 記）



▲ セミナーの様子

東北支部

平成15年7月24日

7月24日(木) 仙台ガーデンパレスにて東北支部設立総会及び記念シンポジウムが行われた。

設立総会では、溝口忠昭支部長挨拶があり、その中で支部設立に至る経過が説明された後、規約・役員・事業計画および収支予算計画が報告され、田中信壽副会長と浅野史郎宮城県知事(加藤出納長代読)から祝辞を頂いた。

記念シンポジウムは、東北大学や東北経済産業局など 23 団体の主催・共催によって特別講演 2 件、パネルディスカッションが行われた。特別講演は、経済産業省リサイクル推進課課長井内摂男氏による「3R 政策の現状と課題」と題した国のリサイクル事業への取り組みをお話頂き、(財)紙の博物館・学芸部長丸尾敏雄氏からは「紙の文化誌」と題して、特に和紙に関する紙の製造からリサイクルにおける技術の変遷と歴史を判りやすくお話し頂いた。

また、パネルディスカッションは「地域に密着した紙のリサイクルのあり方」と題し、奥脇昭嗣氏（東北大学）をコーディネーターに、遠藤守也氏（仙台市）、佐藤清隆氏（宮城古紙直納事業組合）、高柳晴夫氏（（財）古紙再生促進センター）、二瓶啓氏（日本製紙株）、深野せつ子氏（けやきオフィス町内会）

山口一良氏((社)東北経済連合会)を招いて行われた。それぞれの立場から、分別、回収及びリサイクルにおける問題点を明確に示して頂き、さらに地域が一体となった今後の取組みの方向性について活発な討議が行われた。

シンポジウムには、約 190 名の参加があり、東北支部の今後の発展に相応しい活気ある船出となった。
(吉岡敏明 記)



▲ 記念シンポジウムの様子

【お知らせ】

新刊紹介

『新版 ごみ読本』が刊行されました

この程、ごみ問題の入門書として各分野の多くの方々に利用されている廃棄物学会編「ごみ読本」が、装いも新たに「新版 ごみ読本」として刊行されました。

今日、廃棄物問題は、循環型社会の形成に向け、ますます難しい課題に直面し、その解決策が急がれています。廃棄物問題、とりわけごみ問題を正しく理解していただくため、最近の法改正等制度や新しい技術などを分かりやすく解説しています。是非ご利用ください。

廃棄物学会では、会員価格として本書（定価 2,400 円＋税）を 2,100 円（税込）で頒布いたします。下記まで、住所（送付先）氏名、電話番号、必要部数を明記の上、FAX にてお申込ください。

申込先 廃棄物学会事務局 FAX：03-3769-1492

平成 15 年度会費納入のお願い

平成 15 年度の会費につきまして、正会員・学生会員の方には郵便払込取扱票を、公益会員・賛助会員のご担当者には請求書を送付させて頂いております。未納の方は、早急に納入下さいますようお願いいたします。なお、本年度は次期（第 8 期）役員選挙が実施されます。正会員の方で、9 月末日までに会費未納の方は、選挙権、被選挙権が失われますので、十分ご注意ください。

○（社）日本生物工学会主催、廃棄物学会協賛シンポジウム

「未利用資源を利用した機能性食品の製造」

開催日時：平成 15 年 9 月 16 日（火）～9 月 18 日（木）

開催場所：熊本大学 黒髪北キャンパス

大学教育研究センター（熊本市黒髪 2-40-1）

参加費：14,000 円

連絡先：（開催まで）木田建次 TEL:096-342-3667

（開催期間中）TEL & FAX:096-342-3669

会 員 状 況	
	H15.7.31 現在 () 内は、H15.4.1 以降の増減
正 会 員	3,640 (84)
学生会員	319 (52)
外国人会員 (DM)	27 (3)
公益会員	115 (3)
賛助会員	192 (-14)
登録団体市民会員	2 (2)
計	4,292 (133)

注) 外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第 4 条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.76 平成 15 年 8 月 29 日発行
廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F

Tel.03-3769-5099 Fax.03-3769-1492

<http://www.jswme.gr.jp>

古紙配合率 100%再生紙を使用しています



JSWME Newsletter No.45 (July)発行のお知らせ

下記内容の英文ニュースレター 45 号が発行されました。

JSWME NEWSLETTER は 41 号より電子配信のみとなっています。最新号、バックナンバーは学会ホームページ (<http://www.jswme.gr.jp>) から入手できます。

主な内容

- ・我が国の海外開発援助:OECC (海外環境協力センター)
- ・技術管理者制度:廃棄物処理法の枠組み紹介シリーズ
- ・公共関与による産業廃棄物処理:かながわグリーンセンター
- ・韓国廃棄物学会 2003 年春季大会参加報告

Contents of No.45

- ・ Dear Waste Management Experts
- ・ Japan's ODA on SWM -Technical Committee Set Up by OECC-
- ・ Technical Managers for Waste Treatment and Disposal Facilities
- ・ Japanese Municipalities on the Move (15)
-Industrial Waste Treatment with Public Initiative -
- ・ Report of the 2003 Spring Conference of the JSWME
- ・ Contents of Journal of the JSWME, Vol.14, No.3
- ・ Cartoon by High Moon: "From 3Rs to 2Rs"

事務局だより

この数ヶ月の間に、産業廃棄物の不法投棄による環境汚染現場の原状回復をめぐる二つの動きがありました。

一つ目は、産業廃棄物不法投棄の象徴であった香川県豊島の原状回復事業が、この4月から開始されたことです。遮水壁や遮水シートによって暫定的に環境から隔離されていた不法投棄廃棄物と汚染土壌は、約6km離れた直島まで海上輸送され、溶融炉によって実に10年間にわたって処理され続けることとなります。(平成16年に高松市で開催予定の研究発表会では、施設見学の手配が有望です。)

二つ目は、平成 9 年より前に産業廃棄物が不法投棄された現場の原状回復事業を支援する「特定産業廃棄物に起因する支障の除去等に関する特別措置法」が 6 月に成立したことです。特別措置法によって、豊島の約 1.6 倍を超える産業廃棄物が不法投棄されている青森・岩手県境の現場をはじめとする全国の汚染現場における原状回復事業の前進が期待されます。しかし、実際の不法投棄現場の原状回復にあたっては、豊島の事例のように、事業実施の道のりは平坦ではなく、長い時間を要します。様々な場面で、廃棄物学会会員の方々の連携と問題解決への貢献が強く求められます。

(谷川 昇 記)